

## 令和7年11月26日開催 定例美祢市教育委員会会議録

**開催日時** 令和7年11月26日（水）午後1時30分から午後2時55分  
**開催会場** 美祢市役所3階「301会議室」

<b>出席者</b>	南 順子	教育長	
<b>出席委員</b>	金子 明美	教育長職務代理者	
	松本 孝志	委員	
	井上 敏雄	委員	
	谷岡奈美子	委員	4人
<b>欠席委員</b>			なし
<b>出席教育委員会事務局職員</b>	千々松雅幸	事務局長兼生涯学習スポーツ推進課長	
	宇野 勇氣	〃 教育創生監	
	田中 美香	〃 教育総務課長	
	中島 幹晃	〃 学校教育課長	
	神田 高宏	〃 文化財保護課長及び世界ジオパーク推進課長	
	渡壁 誠	〃 学校教育課主幹	
	倉増 裕	〃 教育総務課総務班長	7人

（午後1時30分）

### 1 開会

**事務局長 千々松 雅幸**

それでは、皆さんこんにちは。

ただいまから、令和7年11月の定例教育委員会会議を開催いたします。

これよりの進行は教育長よろしくお願ひいたします。

### 教育長挨拶

**教育長 南 順子**

改めまして、皆様こんにちは。

澄み切った青空のもと、銀杏の紅葉の美しさがひときわ目立つ今日この頃で

ございます。

本日は御多用の中、11月の定例教育委員会議にご出席をいただきありがとうございました。

初めにお詫びを申し上げます。

本日の定例教育委員会の資料の配布が決裁の関係で会議の前日になり、委員の皆様方には大変ご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。

今後はできるだけ早く資料お渡しできるよう努めるつもりでございます。

改めて深くお詫びいたします。

早いもので、令和7年も残すところあとひと月となりました。

今インフルエンザが蔓延し美祢市内の小中学校でも学級閉鎖などの措置をとっております。

今年は夏が長く秋が駆け足で過ぎたり、あっという間に冬を迎える、二季化が進んだと言われています。

2季とは普通春と秋を指すそうですが、今年の2季とは夏と冬で、三重大学のグループがこの40年間地球温暖化による海面水温の上昇が主な要因で、夏の期間が約3週間、これはほぼひと月に匹敵すると思いますが、長くなり、二季化が進んだと研究成果を発表しております。

美祢市では現在のところ目撃情報はあるものの、幸い人命に関わる被害の報告はありませんが、全国的に熊の出没が増えたのも、温暖化による熊の食料となるドングリの供給の変化が一因と見られています。

今年はカキ等の果物が豊作でしたが、来年もし不作になると、えさを求めてもっと多くの熊が人里に出てくるのではないかと懸念され、子供たちへの安全対策についても、今後一層警戒を強めていかなくてはと思っているところでございます。

さて、教育委員の皆様方には、今月もお忙しい中、4校の学校訪問をしていただき、ありがとうございました。

校長の学校経営説明の後、わずか1時間程度の授業参観で全ての学校の状況を逐一把握するのは難しいところではございますが、委員の皆様方から学校訪問されての様々なお気づきや率直なご意見、ご感想をいただき、また、後程、学校教育から報告があります10月の確認問題の結果等も踏まえ、山口県や美祢市の目指す全ての子供たちの可能性を引き出し、子供の思いや願いを大切に資質や能力を育成する授業が展開されているかどうか、また、もし、できていないのなら、どこに課題があるのか、それをどう改善していくことが必要なのかをともに検証し、美祢市の重要課題の1つである学力の向上に向けて、今後の取り組みに生かしていくらう思います。

教育委員の皆様方のご指導ご助言をよろしくお願いいたします。

現在、美祢市内のすべての小中学校で、いじめゼロ不登校ゼロのウェルビー

イングな学校を目指しています。

ウェルビーイングな学校とは、子供たちにとって、学校がお互いに認め合い、助け合い、励まし合う安心安全な場所であり、学校に来るのが楽しいと実感できること。

そのためには、子供を主語にして、子供たちと一緒に授業や教育課程を生み出す工夫実践を積み重ね、子供たちの授業や学校生活の満足度が高くなるよう、全教職員が一丸となって取り組むことが必要です。

そのような積み重ねを続けることで、子供たちが元気よく登校し、笑顔で機嫌よく下校することができ、先生方も働きがいを感じ、地域や保護者からの信頼も深まってくると思います。

美祢市の小中学校合わせて現在 987 名でございますが、その子供たちが笑顔で生き生きと楽しく学校生活が過ごせるよう、そして、他人と比較することのできない一人一人のその子なりのかけがえのないよさを、教職員はもちろんのこと、周囲の大人も見抜き伸ばしていく必要だと感じています。

アメリカの大リーグで 4 度目の MVP に輝いた大谷翔平選手は、日本ハム時代の 5 年間、当時の栗山監督が育成プランで寄り添い、二人三脚で投打の二刀流を作り上げたと言われています。

当初、二刀流への挑戦に否定的な意見が相次いだ中、栗山さんは「まだまだ僕が思っている大谷翔平選手の天井はこんなところじゃない」と、大谷選手の可能性を信じ続けたそうです。

「どんな子供にも、大人に眼力がないために、埋もれたままになっている何かが必ずある。」これは、漫画家の手塚治虫さんの言葉ですが、この言葉の深い意味をしっかりととかみしめたいものです。

## 2 署名委員

### 教育長 南 順子

それでは、初めに署名委員の指名をさせていただきます。

本会議につきましては、井上委員と松本委員にお願いいたします。

### <両名了承>

## 3 前回会議録の承認

### 教育長 南 順子

前回会議録の承認につきましては、谷岡委員と井上委員にお願いいたします。よろしいでしょうか。

## <両名了承>

### 教育長 南 順子

ありがとうございます。

## 4 教育長報告

### (1) 行事関係

### 教育長 南 順子

それでは次に、行事関係について報告をいたします。

お手元の資料をご覧ください。

10月30日に、中国地区都市教育長会定期総会及び研究協議会に出席のため、島根県浜田市に行って参りました。

お手元に文部科学省の「教師を取り巻く環境整備について」というカラー刷りの資料をお配りしております。

すみません。これは教育委員さんだけで大変申し訳ございませんが、この資料、6ページをちょっと御覧いただけたらと思います。

その6ページの下段に「令和の日本型学校教育を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について(答申)」で、これは学校における今本当に巷で言われています働き改革の目的ということについてでございますが、ちょっと読ませていただきます。

「教師を取り巻く環境整備の最終的な目的は、学校教育の質の向上を通した、全ての子供たちへのよりよい教育の実現である。

具体的には、教師のこれまでの働き方を見直し、長時間勤務の是正を図ることで、教師の健康を守ることはもとより、日々の生活の質や教職人生を豊かにするなど、教師のウェルビーイングを向上させることが重要である。

また、自らの人間性や創造性を高め、その意欲と能力が最大限発揮できる勤務環境を整備し、教師がその高い専門性を大いに発揮できるようにすることにより、子供たちに対してよりよい教育が行うことができるようになる。」ということで、結論から申しますと、この資料8ページ、次の1枚めくっています8ページになりますが、その左側に記載してありますように、学校における働き改革の一層の推進で(1)、教育委員会における実施の確保のための措置として、米印を打っておりますけれども、計画の内容及び実施状況について、総合教育会議への報告を義務づけるとございます。

ですから、今後、総合教育会議を開催する際の資料としてご活用していただくために、各委員さん方の方で、この資料を確実に保管していただき、総合教育会議開催までは、できたら教育委員会会議にご持参いただけたらと思います。

今回は、資料の配付をもって復伝に代えさせていただきますので、大変お忙しいとは存じますが、是非内容について一読をされますようお願ひいたします。

続きまして、11月1日と2日の2日間にわたって生涯学習フェスタが開催されました。

このフェスタにつきましては、各方面からいろいろご意見等いただいておりますが、実はこの生涯学習フェスタ開催日を、美祢市教育の日と定めております。

しかしながら、作品募集や表彰、優秀作品の発表などは例年継続して行っていますが、幼保小中高校生を対象とした若い世代の参加をもっとふやすことで持続可能な事業として、また、美祢市教育の日にふさわしい事業として、今後も継続しできるようにしたいと願っているところです。

また、この件につきましては、教育委員の皆様方の建設的なご意見を伺えればと思いますので、今後どうぞよろしくお願ひいたします。

それから、11月12日と13日ジオパーク推進課の神田課長と一緒に、6月に引き続き2回目の政府要望のため上京いたしました。村岡山口県知事、柳井県議会議長、福田岩国市長、片岡岩国市議会議長とともに、ユネスコ世界ジオパーク認定を見据えた美祢秋吉台ジオパークへの支援、それから、岩国市の錦帯橋の世界文化遺産登録のため、文部科学省の中村博之文部科学副大臣に面会をし、要望いたしました。

また、時間的にも余裕があったため、日本ジオパークネットワーク事務局や山口県東京事務所も訪問し、美祢市から東京事務所に出向している田中主事にも会うことができました。

委員の皆様には、お手元のA3の資料、これでございますが、これをお配りしております。

このユネスコ世界ジオパーク認定を見据えたMine秋吉台ジオパークへの支援について、これが要望の全般でございますので、これをご覧いただけたらと思います。

それから、11月19日に美祢市教育交流事業台湾研修報告会を行いました。

この報告会の様子につきましては、子供たちが非常に感動したすばらしい事業でしたので、後日改めて写真や動画のプレゼン等で、教育委員の皆様方にその感動そのものをお伝えできればと思っております。

以上大変簡単でございますが、何か委員の皆様方からご質問等がありましたらお願ひいたします。

## 5 報告・議案

### 教育長 南 順子

それでは、続きまして議案の審議に入らせていただけたらと思います。

議案第68号、美祢市教育委員会行政組織規則の一部改正について教育総務課、田中課長お願ひいたします。

## **教育総務課長 田中 美香**

議案と資料は各1ページ目になります。

美祢市教育委員会行政組織規則について、先に統合をいたしました秋吉学校給食共同調理場の文言を削る改正の承認を求めるものです。

なお、本規則は公布の日から施行いたしますが、改正後の規定は秋吉学校給食共同調理場が統合された日の令和7年8月25日から適用をいたします。

以上です。

## **教育長 南 順子**

では、議案第68号について質疑等があれば承りたいと思います。

すみません。ちょっと時間をとりたいと思いますので、よくご覧になりまして、質疑等があればお願ひいたします。

それでは、特にないようですので、議案第68号の質疑は終了させていただきます。

お諮りいたします。

議案第68号、美祢市教育行政組織規則の一部改正について、説明のとおりご承認いただけますでしょうか。

ご承認いただけます方は、挙手をお願いします。

## **<全員挙手>**

## **教育長 南 順子**

ありがとうございました。

全員賛成ということで承認されました。

議案第69号、美祢市栄光賞授与要綱の一部改正について、生涯学習スポーツ推進課、千々松課長お願ひします。

## **生涯学習スポーツ推進課長千々松 雅幸**

美祢市栄光賞授与要綱は、スポーツ及び文化に関する諸活動において、栄誉を与えるに当たる成績を修めたものの功績をたたえ、その活動を奨励するため、授与することについて必要な事項を定めたものです。

授与要綱で対象を規定する第2条等において、美祢市内に主たる活動拠点のある団体に属する市外の個人等が授与対象となっていることを明文化するため、要綱の一部改正について教育委員会の承認を求めるものです。

説明は以上になります。

## **教育長 南 順子**

それでは、議案第69号について質疑等があれば承りたいと思います。

よろしいでしょうか。

特ないようすで、議案第69号の質疑は終了させていただきます。

お諮りします。

議案第69号、美祢市栄光賞授与要綱の一部改正について、説明のとおりご承認いただけますでしょうか。

ご承認いただけます方は、挙手をお願いいたします。

### <全員挙手>

#### **教育長 南 順子**

ありがとうございました。

全員賛成ということで承認されました。

#### **6 協議報告等**

#### **教育長 南 順子**

それでは、協議報告に移ります。

教育総務課田中課長、お願いいたします。

#### **教育総務課長 田中 美香**

教育総務課からは2点ほどございます。

1点目が、令和7年第4回美祢市議会定例会の議案についてでございます。

12月の2日に開会いたします12月の美祢市議会定例会におきまして、教育委員会事務局から提出した議案についてご説明をいたします。

今定例会につきましては、議案が3件ございます。

1件目は美祢市鳳鳴地域交流センターの指定管理者の指定についてです。

指定管理者となる団体は鳳鳴やまさと会、指定の期間は令和8年4月の1日から令和11年3月31日までの3年間でございます。

2件目は美祢市都市公園の指定管理者の指定についてです。

施設の名称は秋吉台国際芸術村、指定管理者となる団体の名称は公益財団法人山口きらめき財団、指定の期間は令和8年4月の1日から令和9年3月31日の1年間でございます。

3件目は補正予算です。

8月の教育委員会会議でご報告をいたしました寄附について、補正予算を提出いたします。

歳入は寄附額の100万円、歳出は、大嶺小学校へことばの教室が移転することに伴い、エアコンの設置が必要となりますので、その工事費として95万円、残りの5万円は学校での図書費に充当をいたします。

12月定例会に係る提出議案の説明は以上です。

## **教育総務課長 田中 美香**

続いて、小中一貫教育校美東小中学校の施設一体型への移行時期についてです。

美東小中学校の施設一体型への移行時期については、令和9年4月を目指して参りましたが、先週の11月20日木曜日の第8回美祢市美東地域未来を拓く学校づくり協議会で、令和10年4月に移行するという変更が決定されましたので、ご報告をいたします。

原因といたしましては、工事を施工する業者の働き方改革として、週休2日制の導入、熱中症対策、夏季の工事の中止など、実質的に工事の期間が延長される事態が予測されることでございます。

これらにより、工事の完了は早くて令和9年7月となることから、移行の時期について、未来を拓く学校づくり協議会での協議が重ねられ、子供たちや先生方への負担とならず、スムーズに移行が進められる令和10年4月に移行を目指すことと決定をされました。

以上です。

## **教育長 南 順子**

それでは、今2件ほど教育総務課の方から報告がありましたが、何かご意見とかご質問がありましたらお願ひいたします。

ちょっとなどることになりますけれども、施設一体型小中一貫教育校美東小中学校の供用開始は、令和10年4月ということで、今、議会の承認をいただきましたら、それに向けて本格的にスタートしていこうというふうに思っております。

まだ議会の承認を終えてからでございますけれども、令和10年4月に決定したということを教育委員の皆様方にこの場をお借りし、お伝えしたところです。

よろしいでしょうか。

はい。

それでは、引き継ぎ学校教育課お願いいたします。中島課長。

## **学校教育課長 中島 幹晃**

学校教育課から (1) 学校の様子について2点ございます。

本日お配りした右側に1、2、3、4と、資料番号のタブがついております。

学力向上に関する資料をご覧ください。

10月に県で一斉の学力状況確認問題が行われ、結果が出ましたので、急ぎ、その結果を受けて後期の美祢市の学力向上実行計画を決定したところでございます。

資料が大変多くございますので、概要のみご説明させていただきます。

まず、大きな2番、現状と課題ですが、小学校5、6年生が100名程度、中学生、

この2年生だけ138名というふうに、概ね100名から130名ぐらいの規模でございますが、小学校5年生の例で言いますと、4月からの伸びにこの度は主に注目しております。

小学校5年生、国語と書いてあって、伸びが0.2ポイントと、これがあまり伸びていないということになります。

それから、算数についても伸びがマイナス2.4ということで、あまり伸びていない。むしろマイナスに動いているということでございます。

ただ、6年生につきましては、丸をつけておりますが、国語はプラス2.7ポイント、算数につきましては、二重丸がついておりますけれども、プラス4.2ポイント伸びている。

中学1年生については2.2ポイント伸びており、算数はほとんど伸びていない。中学2年生は両方二重丸がついております。

国語が4.5ポイント、数学が4.1ポイント。

ただし、伸びの横に県比と書いてございますのは、県を水準というふうに今とらえておりますので、水準と比べると、5年生についてはまだかなり低い。

6年生についてはかなり接近しております。

中学1年生、これが小学校6年生のときに10ポイント以上、かなり低い数値を出しておったのですが、かなり改善してきているが、まだ、水準に達していない。

中学2年生については、これはすべて二重丸が続いておりまして、県よりもプラス4.6とか4.3というような高い数値を出しております。

ただ、中学2年生、英語についてはややのび悩んでいるというような状況でございます。これが市全体のことです。

これを、大きい3番に改善目標で書いておりますが、小中ともに今度の4月にまた確認がございますので、その時の結果、比較したら、プラス3ポイントを伸ばしていきたいというのが、市全体の計画でございます。

これは、単なる数字を伸ばしていくってことではなくて、先ほどありましたような、子供を主語にした子供主体の教育活動を授業でも、学校行事でも、総合的な学習の時間でも、そういったところで総合的に大人の自己満足にとどまらず子供たちにちゃんと力をつける。

その結果プラス3ポイントを成長させていくっていうところを目標にしております。

大きい4番、基本姿勢で3つ挙げております。

まずは①課題の共有、この数値的なことをしっかり学校、市教委と学校の管理職から学校の教職員、それから、学校運営協議会、そして、大事な子供たちと共有していく。

そして②、授業改善、これがやっぱり本丸でございます。

授業改善で、今までではどちらかというと、1時間の授業をいかに、充実させるかというところに焦点が当たりがちであったのですが、やはり単元を通してこ

の単元で全体を通して子供たちに力をつけるかっていうこと。これがこれから非常に重要になって参りますので、そのあたりも重要視して参りたいと思っております。

後程、図にしてありますので、そのあたりで詳しくご説明させていただきます。

3つ目といたしまして、第3層の実態把握というのは、先生のサポートがないとなかなか一斉授業ではついていけないお子さんたち、これを取りこぼすことなく、個別最適な学びというところを保障していく。その辺りにも力を入れたいというところでございます。

1枚めくっていただきますと、今ご説明したこと少しポンチ絵にしております。

めくっていただいてカラーページがあります。

上が、先ほどご説明した実行計画をポンチ絵にした全体図で、下の方が一番本丸である授業改善のところの詳しい資料になります。

ちょっと字が小さいので、右側に大きくしております。ちょっと方向を変えていただいて、全体図を見ていただきますと、一番下に課題の共有というのがございます。

やはり何が伸びていて何が課題なのか、成果についてはですね、みんなと共有して、大いに喜び合いたい。

今まで課題が多くたのですが、成果も、確実に少しずつ出てきておりますので、それがやはり教職員のやりがいや働きがいに繋がると思いますので、いいところもしっかりと共有していきたいと思っております。

その一番下の課題の共有からぐっと矢印が右と左に出ておるのですが、左側が本丸の授業改善のところでございます。

新しいこのちょっとかがみ餅のように、一番下のお餅のところがですね、これを新しくつけました。

これは、今まで自由進度学習とか、そういうような理想的なことを書いておったのですが、やっぱり足元のところ、美祢のこの扉を開けるはじめの一歩ということで、小学校の低学年1、2年生のうちに、将来いろいろ困らないように、このときに習慣をつけさせようじゃないかというので、1、声がしっかり出せる。2、すらすら読める。3、ゆっくり丁寧に書ける。4、九九ができる。5、人の目を見て聞く。こういったところを共通して力を入れていきたいと。

その次の上のお餅のところ、ここはICTやAIを授業に活用して新たな可能性を創造していく個別最適な学びと、やっぱりAIやICTの活用は欠かせないと思っております。

その一番上に、もうスタンダードな授業改善ですが、目当て、振り返り、発問、板書それから下2番目に、考えの形成、対話、教師の見取り、それから、子供の自己選択、自己決定、自己調整、こういう自由進度的なこと、こういったことを全ての学校で取り入れていく。

こうであってもどうしても取りこぼすお子さんたちが、セーフティネットとして右側、学び直しも全校体制で行う。

担任任せにせずに、我々第3層という呼び方をしておりますけれども、なかなかサポートがないと、一斉指導についていけないお子さんたちに、いつ誰が何を指導するのかっていうことをちゃんと学校体制として時間をとる。

そういうところを組織的に取り組んでまいろうと思っているところでございます。

めくっていただきまして、授業改善のところの資料ですが、これも印刷するところちょっとばやけておりますので、具体的なものを右側に資料をつけております。

その右側自由進度の扉、これは新しい授業のあり方で、教育委員さん方も共有しているものでございます。

自己選択、自己決定、自己調整の力をつけていく、学び方を学ばせていくという、そういうところ意欲を引き出していく授業形態でございます。

これがやはり全体の授業ですね、最低1割ぐらいは苦手な先生ベテランの先生でも取り組んでいただけるように働きかけていきたいと思っております。

自由進度学習の扉をめくっていただいて2枚めくっていただくと、次に県教委の資料で授業づくりガイドというのがカラーで出てきます。

これはですね、先ほど申し上げた、主に1時間の授業をどう充実させるかというものがまたそれめくっていただくと見開きで、1時間の授業こういうふうになるところがポイントですよ。

若い先生方、経験の少ない先生方でも読んだら、大切な授業の体制というようなことがわかるようになっている。

こういうのもも、有効活用して授業技術の向上というのを、管理職や指導主事が先生たちに指導する際の資料にしていきたいというふうに思っております。

県教委の資料の次にA3のとじ込みで、小さい字の縦になっておりますけれども、この一番上に小さく、学力向上推進対策シートと書いてあって、表が小学校で裏が中学校になっています。

これはですね、4月の全国学力状況調査が済んだ後に、各学校に作ってもらったものです。

上から伊佐小になりますけれども、全校体制でどんなことを取り組むのか、まず10月に向けての目標は何か。

そして、第3層支援を具体的にどのようにするのか、こういうものをちゃんと明確にして、市教委の方で管理しておるところです。

やはりですね、誰が何をするのかっていうことがきちんと具体的に書かれている学校は成果を出しているなというふうに感じています。

状況の分析が次のカラーのページになります。

青と赤で色分けがされている、次のページをご覧ください。

これが4月と10月を比較しての伸びを表したものになっています。

これは建制順ではなくて、上の方にある学校が成果を上げている学校で、青が成果のあった色になっております。

二重丸がついております。三角がついているものがなかなか成果の出てない、或いはちょっとマイナスに動いているところになります。

二重丸は県平均水準をオーバーしている、超えている学校。或いは市の目標である4月から10月にかけて3ポイント以上伸ばしましようよという目標を達成した学校。

小学校であれば、一番上に、6年生でも5年生でもすべて目標を達成しているのが秋芳桂花小学校。

こういうふうに見していくと、学校体制で成果の出る取り組みをしているということが見て取れます。

真ん中あたりになると、6年生では成果が上がっているけれど、5年生では成果が上がってないとか、下の方になると、二重丸がない。

伊佐小学校や厚保小学校については、学校体制でなかなか伸ばせてない。

この辺りは市教委もしっかり入ってですね、具体的に担任任せになってかと、そのあたりを伴走支援していきたいというふうに考えております。

こうやって見ていただきますと、中学2年生がかなり青い。青い成果を上げているというところが見て取れるかというふうに思います。

具体的な数値、次のタグがついている②、以降がいつも、お見せしているところで、改善点で井上委員さんに人数を入れてということでいただいておりますので、人数も学校の横に入れております。1名の学年もあります。学校もありますので、個人が特定されますので、取り扱いには十分ご注意いただいたらと思います。

濃い赤が課題、濃い青は成果が十分に上がっているところということで、これはいつも見ていただいているところなので、先ほど説明したところが反映しているのかなというふうに思います。

1枚目の上が小学校6年生、下が小学校5年生、2枚目めくっていただきますと、上が中学校2年生、下が中学校1年生になります。

その右側は美祢市が独自で早めに子供たちの実態を把握するためにとっている小学校3年生の数値です。

これは市内でとっているものなので、市平均との比較しかございません。

めくっていただきますと小学校4年生になっています。

さらにめくっていただきますと、今度は③のタグがついているところにグラフがございます。

これは、子供たちの棒グラフになっておりまして、人数が反映していて、左側の棒グラフが細かい方が4月の数値です。

右側の問題数が少ない7問しかないのですが、これが10月の県の問題で左から右に成長した、例えばこのページであれば、4月、小学校5年生の国語は正答

数が3問しかできない子が極端に多かった。これが右側10月になると少し正規分布に落ち着いてきている。

あるいは、4月の段階は全問正解に近い子はほとんどいなかつたけれども、10月には7問、全問正解の子は12人とか、こういうふうになっておりまして、1枚めくっていただきますと、これは学校別、一番上の伊佐小学校であれば、これ5年生の国語ですけれども、1問しかできないお子さんが1人いらっしゃる、2問しかできないお子さんが3人もいる。

このあたりを、やっぱり一斉指導の中で、ほったらかしにしているとなかなかついていけないのでないのではないか。

この辺りは我々第3層と呼んで、誰がここに該当しているのかっていうのを、市教委と学校のすべての先生が名前で共有して、その後の支援に当たるというのを目指しているところでございます。

あとは小学校6年生、中学校1年生と、やっぱり先ほどからご説明しているような、中学2年生が比較的、グラフの形もやはりいいものになっているので、またご覧いただいたらと思います。

最後のタグの4がついているところをご覧ください。

これは10月も、問題と同時に、児童生徒の質問紙でアンケートをとっておりますので、その数値です。

これも肯定的な回答が県の水準よりも3ポイント以上市が上回っているものは青。3ポイントよりも低い未満のものは赤をつけておりますので、項目ごとに見ていただきますと、美祢市全体の傾向というのが見えるかなというふうに思います。

数字だけじゃなくこのようなアンケート結果も参考にして、学校の支援にあたりたいと思います。大変長くなりました。

以上でございます。

### **教育長 南 順子**

ありがとうございます。

県の結果が出たのも本当に一昨日でしたか、学教のほうが連休返上で資料をまとめてくれました。大変ご心配でございました。

時間がなかなかないので、時間をとりたいと思いますが、先に、昨日見せていただいて、ちょっと見落としていて、大変申し訳なかったのですが、何ページですかね。

1のこの学力推進対策達成状況分析のこの表のことについて、1の一番最後です。最後から、ここのところでです。すみません。

その区分のところで、二重丸、丸、三角と印がつけてございますけれども、二重丸っていうのは、県平均を上回っているということ。

### **学校教育課長 中島 幹晃**

意味は、「又は4月から3ポイント伸ばしている」ということです。

### **教育長 南 順子**

ということでございます。

県平均を上回って、しかも4月時点からの伸びがプラス3%に解釈しまっていました。

### **学校教育課長 中島 幹晃**

例えば、美東小学校なんかそうなのですが、伸ばしているけれども、県よりも低い。

### **教育長 南 順子**

これは「又は」でというこの・点がその意味なのですね。

### **学校教育課長 中島 幹晃**

右肩上がりに県までは行ってないけれども、頑張ったという。4月より3ポイントちゃんと全校体制で伸ばしてくれているというところでございます。

### **教育長 南 順子**

他の丸や三角とは違いまして、又はということでございますので。

教育委員の皆様方、大変膨大な資料を今すぐ見ていろいろご意見ご感想という方がちょっと大変申し訳ないのですけれど、ざっと見られて、もし何かご感想とか、ご意見お気づき等があれば、また質問でも結構でございます。この場で伺いたいと思いますし、これは大変重要な美祢市にとっての課題でございますので、できれば、しっかりまた読んでいただいて、次回、12月にでもまた改めてご意見とかお気づきを、聞かせていただくという、そういう場を設けてもよろしいでしょうか。

今、本当にご覧になられて、この場で何か今、ご感想お気づきとかありましたら。

井上委員お願いいたします。

### **委員 井上 敏雄**

ページ数がないのでわからないのですが、A3見開きの学力向上推進対策シートがあるのですけれども、これはテストを受ける前ですよね。

10月の確認問題を通じて、目標を各学校が掲げて、それに向けてどういう体制の取り組みをするかということで、各校こうしたら、点数が上がるのじゃないかという対策をとって臨んだ結果が、次のページにあるのですけれども、学校によって、全然違うとは思うのですが、これだけの対策をしていただいているにも限らず結果が伴っていないっていうのは、もう1つ何か原因があるのだ

思うのですけれども。

だから、本来はこの後に、これに対して結果を踏まえて、学校はどう分析しているかっていうのがあって欲しいなと。

それはちょっと時間がかかるのかもしれないんですけども、それをやってもらって、それを市教委が把握して、それを踏まえて来年度に向けてっていう形で多分ステップ的にはなると思うので、取り組みとか見ると素晴らしいなというのばっかりなのですけども、それを行っても点数が上がらないっていうのは、じゃあ別に何か理由っていうか原因がきっとあるのだと思うので、学校単位でその辺を分析して、それを市全体にまたフィードバックできればいいかなと思っているので、もう1つ先をお願いできたらと思っています。

### **教育長 南 順子**

貴重なご意見ありがとうございました。

中島課長、お願ひします。

### **学校教育課長 中島 幹晃**

ありがとうございます。

是非そのようにさせていただいて、担当指導主事が各学校すべての学校に行って、うちが持っているデータをすべて共有して、次に向けた具体的な取り組みを、また、よりその成果が上がっている学校の取り組みで、是非こちらも取り入れて欲しいところについてはですね、共有して参りたいと思います。

ありがとうございました。

### **教育長 南 順子**

他に何か委員の皆様方から、お気づきとかご意見ご感想がありましたらお願ひいたします。

金子委員、お願ひいたします。

### **教育長職務代理者 金子 明美**

今、中島課長さんが後半の部分でおっしゃったと思うのですけれども、成果が上がっている学校がございます。

その取り組みを本当、実際にどのような工夫があったかっていうあたりを市全体で共有して、取り入れるところは取り入れていくっていうのも1つの方法かなというふうなことを思いました。

それから大変詳しい分析、それから資料ありがとうございました。

以上です。

### **教育長 南 順子**

松本委員、お願ひいたします。

### **委員 松本 孝志**

私も全く同様です。

学校の取り組みのところをずっとさっきから眺めていたのですけれど、この中で何が本当に、やってみて成果が上がったのかというところを是非調べていただいて、美祢市全体で共有していただければなというふうに思います。

グラフ等も大変わかりやすいので、本当に課題が明確になってくるのかなと思います。

それと先ほど言われた、扉を開けるはじめの一歩、良い習慣づくりというかですね、基本的なところを身につけさせておかなければならないところっていうところに重点を置かれているということも、とてもいい取り組みだなというふうに思いました。

以上です。

### **教育長 南 順子**

ありがとうございました。

谷岡委員、お願ひいたします。

### **委員 谷岡 奈美子**

我が子の学習状況もちょっとといまいち良くわかってないような状況で、お話しするのは申し訳ないのですが、結果を子供にもとおっしゃっていたので、子供を通して、親にもわかりやすいように伝えていただけだとちょっと危機意識が生まれるのかなと思いました。

以上です。

### **教育長 南 順子**

ありがとうございました。

短時間で本当によく見ていただきて、いろいろ貴重なご意見ありがとうございました。

是非そういうふうな形で、また、しっかり学校とも共有しまして、皆様方にまたお知らせしたいと思いますので、よろしくお願いできたらと思います。

私からすみません。1つ、いつも言っているのですけれども、この質問紙は4月の内容とは変わってないのですけれども、10月にまた取られたわけですね。

私もいつも学校訪問のあと個別の面談の時に、各学校の校長、教頭には言っているのですけれども、この質問紙の4の（3）「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」ということで、今「いじめゼロ、不登校ゼロのウェルビーイングな学校」を目指しているということで、やはり子供たち自身、いじめをゼロにするためには子供たちの意識の中にやっぱりいじめは本当にしてはいけない。結局いじめをする自分自身が恥ずかしいのだという、そのと

ころをしっかりと自分を見つめられる子供というところで、ここは是非100%になるようにお願いしたいというところで、伝えてはいるのですけれど、この結果から見ると、小学校5年生では78.9%、100%のうちの78.9%と子供たちがそう思うと力強く答えてくれているっていうふうに見ていいわけですよね。

6年生が91.7%。ただ本当に4月でもですね、小学校はかなり100%近かったので90%多かったのですが、中学生が70%で、しかも赤ということは県よりも低いということですかね。

だから、こここのところは、中学校も是非お願いしたいということです。この辺りはまた引き続きしっかりと学校の方に、ここのところの意識を変えないといじめゼロ不登校ゼロには繋がってこないので、また、取り組んで欲しいと、これは私自身が取り組むべきことだというふうに今、とらえているところでございます。

他に何かございますでしょうか。

それでは、一応この件につきましては、まだこれから検討課題というところで宿題もたくさんいただきましたので、次回にしっかりと検討できたらというふうに思います。

それでは、2番目のライフデザイン交流会については、中島課長お願ひいたします

### **学校教育課長 中島 幹晃**

学校の様子でもう1つ、2点目なのですが、事前送付の資料の最後に美祢市いじめ問題不登校対策連絡協議会開催要項というホチキス留めの資料を入れております。これはご報告だけでございます。

いじめ問題不登校対策の1枚めくっていただいたところが、関係機関も集まり、それから各学校の生徒指導主任等も集まって、このような協議会を持っていますということで、このたびは、4の④のところで、臨床心理士の桑原先生、この会のメンバーでもあります、美祢市内のスクールカウンセラーを長く務めていただいた先生が「話を聞くということ」と題して講演をいただいておりますので、大変いいお話をしたので、資料もおつけしております。

これはご報告だけでございます。

以上です。

### **教育長 南 順子**

ありがとうございました。

それでは2番目のライフデザインの方、宇野創生監、お願ひいたします。

### **教育創生監 宇野 勇気**

学校教育課教育魅力化推進室から、ライフデザイン交流会実施要項、お手元の資料でお話をさせていただきます。

本事業は昨年度までキャリア学習会という名称で実施してきました

が、今年度よりライフデザイン交流会という名称に刷新をいたしております。

変更点としましては、従来は市教委と美祢青嶺高校、或いは各中学校が対等な中でデザインをして参りましたが、今年度は試験的に美祢青嶺高校が主導となつて全体のデザインをしつつ、市教委としましては企画全体の調整や運営のサポートという形でかかわらせていただいております。

本事業の目的としましては、今回の変更に伴つて高校生にとって中学生を楽しませつつ、自分たちがこの企画全体を高校生自身がデザインすることで企画力を高めると同時に、自身の高校生活を主体的に見つめなおす機会とします。

一方で中学生にとっては、地元の唯一の公立高校である美祢青嶺高校の魅力を知り、高校生活への具体的なイメージを持つことで、現在の中学校生活をより良く過ごそうという意識の醸成につなげることを狙いとしています。

日時会場については、来月12月9日火曜日の午後1時25分から午後3時35分までを予定しております。

会場は、県立美祢青嶺高等学校の体育館及び視聴覚室を使用いたします。

参加者は中学校側5校のすべての中学校2年生、約150名と引率の教員、高校側に関しては今年度初めて1学年全員ですね。昨年度は普通科のみ1学年の普通科のみでしたが、工業科も含めた1学年全体の68名と教員が参加いたします。

時程につきまして簡単にご説明をさせていただきます。

全体の場面では学校説明や、学校生活進路に関するプレゼンテーションが高校生を主体に行われ、小グループに分かれてからは、中高生が交流する形になります。

アイスブレイクに関しては、高校生が立案したものを行つて緊張をほぐした後に、実際の高校生活の学習内容やテスト部活動について、中学生からの質問に高校生が直接答えられる時間を設けます。

これによつて、中学生が学校生活への期待を高められるようなプログラムを、設計しております。

来年度以降のこの事業の実施に関しましては、12月に開かれる、高校側と中学校側の管理職の連携協議会にて、来年度以降のあり方について今回の反省も含めて、見直す予定でございます。

こちらご報告以上でございます。

### **教育長 南 順子**

今、ライフデザイン交流会のことについて報告がございましたが、何かご質問やご意見がありましたらお願ひいたします。

井上委員。

### **委員 井上 敏雄**

非常に良い企画だと思っているのですけど、参加者の内訳のところ、各中学校は、学年は何か指定があるのですかね。

## **教育創生監 宇野 勇気**

2年生、いずれも2年です。すみません。記載が漏れておりました。

## **委員 井上 敏雄**

先日美祢青嶺高校の学運協があったのですけど、その時に中高の連携をもつとやらないとなという話は議題に上がっていて、こういうことを、やっていただけるっていうか企画が成り立っているのはすごいいいなと思っております。  
ありがとうございました。

## **教育長 南 順子**

ありがとうございました。

是非頑張って、これがいい形で持続をしていけたらというふうに思います。

他に何かお気づきがありましたらお願ひいたします。

よろしいでしょうか。

大変、教育委員の皆様方もお忙しいと思いますが、もしご都合がつけばここに日時が書いてありますが、12月9日の火曜日1時25分から3時35分、この時間すべてじゃなくても少しでもちょっとご覧いただけたるとまたありがたい。ご覧いただいてまたいろいろご意見とかお気づきをいただけたとありがたいなというふうに思います。

それでは、続きまして、宇野創生監お願ひいたします。

## **教育創生監 宇野 勇気**

山口県教育会厚狭地区教育振興フォーラムについてご報告をいたします。

この事業に関しましては厚狭地区にあります3市、宇部市、山陽小野田市そして美祢市が持ち回りで毎年、各地区の各担当エリアの取り組みを、社会教育の文脈で実践されている方が発表されているというところで、今年は主催自体が宇部市になるのですが、宇部市の取り組みは毎年、3市の取り組みを、それをちょっとずつ分けてやっているというところで、来年は美祢市の担当になるのですが、今年度に関しましては、3分の1の時間を美祢市の発表でというところで依頼を受けまして、私が発表の担当をさせていただきながら、公設塾minetoを中心とした教育改革プロジェクトの歩みについてご報告をいたします。

持ち時間は20分でこのレジメ2枚に加えてスライドを、本日はご用意してないのですが、発表時には投影しながら、レジメに沿ってお話をさせていただく予定です。

すべてお話しすると時間がとてもたってしまいますので、概要だけお伝えをさせていただくと、改めて美祢市を取り巻く現在の状況と、市教委としての教育目標を踏まえまして、そこに位置付けられているmineto教育改革プロジェクト、そしてそのコアである、中学生を対象にした公設塾minetoのコンセプトと

教育的意義について、お話をさせていただきながら、3つのプログラムがあるというところと、それを通して地域連携を深め、子供たちを成長させる機会としておりますというお話をしつつ、次のページで実際に子供たちがどういうふうに変わっているのかって言う事例を交えながらお話をさせていただく予定です。

最後、結びといたしまして、来年度、教育会の方から依頼があるのは、このminetoの話に加えておそらくこのまま順調にいけば、世界ジオパークの認定もえられるというところで、ジオパークとの関連も深めながら、単に中学生を対象にしているわけじゃなくて、人を循環させながら、或いは地域と深くこうと連携しながら、そして、持続的にプロジェクトを今進めているというところをお話させていただきます。

かいつまんだ説明になりましたがご報告、以上でございます。

### **教育長 南 順子**

ありがとうございました。

何か教育委員の皆様方からご質問やご意見がありましたらお願ひいたします。

11月29日の会場は、宇部のどちらなのですか。

### **学校教育課長 中島 幹晃**

常盤湖水ホールです。

### **教育長 南 順子**

どうぞよろしくお願ひいたします。

何かこの教育振興フォーラムの件につきまして、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

それでは続きまして、4の項目。

中島課長、お願ひいたします。

### **学校教育課長 中島 幹晃**

(4)の項目ですが、先ほど教育長が冒頭に説明された資料、文科省の資料を、少しだけ補足させてください。

教師を取り巻く教育環境についてという、ちょっと厚手の文科省の資料の先ほどご覧いただいた8ページをご覧ください。

報道等されております公立義務教育諸学校の教育職員の給与等に関する特別措置法等の一部を改正する法律ということで給特法が、50年ぶりぐらいに改正されたというところで、先ほど左側の大きい一番の黒ポツの2つ目のことが、教育長からご説明ありましたけれども、その1つ上に、教育委員会に対し、文科大臣が定める指針に則して、教員の業務量の適切な管理と健康福祉を確保する

ための措置、業務量管理、健康確保措置を実施するための計画の策定、公表計画の実施状況の公表を義務づけるということで、これが、令和8年度の4月1日からすることになっておりますので、お知らせと、今現在もう原案ができておりますし、また完成いたしましたら、教育委員さん方にお伝えできたらと思います。

それをもとに総合教育会議への報告が義務づけられているという建付けでございます。

以上です。

### **教育長 南 順子**

ありがとうございました。

それでは、ご質問等がないようでしたら次に参りたいと思います。

生涯学習スポーツ推進課、お願いいいたします。

### **生涯学習スポーツ推進課長 千々松 雅幸**

生涯学習スポーツ推進課からは、2点報告をさせていただければと思います。

まず1点目は、図書館複合化施設整備基本設計についてです。

本日この資料をお配りしておりますけれども、それは概要版になります。

基本設計が今終わりまして、この基本設計の内容について今、パブリックコメントを実施中です。

12月1日まで実施することとしております。

そして、今現在、今後の実施設計に向けた公募型プロポーザルの準備を今進めているところであります。

後ろの方に完成模型図をお持ちしておりますので、もし終わりましたらご説明させていただければなというふうにも思っております。

12月には市民向けの事業説明会も開催したいというふうに考えております。

図書館複合化施設整備の基本設計についての説明は以上になります。

### **教育長 南 順子**

ご質問やご意見がありましたらお願いいいたします。

会議終了後でよろしうございますか。

それでは、行事についてお願いいいたします。

### **生涯学習スポーツ推進課長 千々松 雅幸**

行事について1件、報告です。

第18回美祢市駅伝競争大会を12月7日日曜日、マツダ試験場において開催することとしております。

第1レース、第2レースありますけれども、第1レースが9時のスタート、第2レースが10時半のスタートということになっております。

参加出場チームですけれども、第1レースが19チーム、第2レースについては25チームの参加ということになっております。

中学校の参加が少し残念な状況でして、学校で言いますと大嶺中と秋芳中のみになっているというような状況であります。

参加チーム数は今年度トータルの44チーム、昨年度43チームでありましたので1チーム増えているというような状況になります。

是非ご来場いただきまして、ご声援いただければというふうに思っております。

説明は以上になります。

### **教育長 南 順子**

大変お忙しいと思いますが、もしご都合がつけば、声援をお願いできたらと思います。

それでは、次に文化財保護課、お願いいいたします。神田課長。

### **文化財保護課長 神田 高宏**

文化財保護課からは、2件ご報告させていただきます。

まず1件目が、二反田ため池清掃作業の実施についてでございます。

12月7日の日曜日に美東町二反田の二反田ため池におきまして、カキツバタを守る会が主体となり、県土木事務所、小郡萩道路の建設に関わる事業者等が協力いたしまして、清掃作業を行います。

ため池内のカキツバタは県自然記念物、湿地植物群が市指定天然記念物に指定されています。

作業は毎年春と秋の2回行われております、文化財保護課、世界ジオパーク推進課からも職員が参加いたします。

今回の清掃作業は、ため池内の草刈、刈った草の持ち出し、遊歩道の草刈が主な作業となります。

カキツバタの見頃は、例年5月中旬頃です。

このような地域と行政が一体となった作業によりまして、来年も綺麗な花を咲かせてくれるものと信じております。

2件目ですが、令和7年度、美祢市歴史民俗資料館特別展の開催についてでございます。

チラシを配布しているかと思います。

11月1日から12月27日、歴史民俗資料館において、特別展「美祢層群の国際的価値 ユネスコ世界ジオパーク認定を目指して」を開催しております。

地球上では5回の生物の大量絶滅、その中でも最も大きな大量絶滅が秋吉台の石灰岩ができた時代である古生代と、大嶺炭田の石炭ができた時代である中生代の境界で起きました。

その際、地球上の生物の種の約90%以上が絶滅したと言われております。

このときに、三葉虫や秋吉台の石灰岩に化石として含まれておりますフズリナ等も絶滅いたしました。

大嶺炭田を含む美祢層群の国際的価値は、この大量絶滅からの生命の復活の象徴である、植物や昆虫の化石が世界的に見てもたくさん産出することが挙げられます。

今回の展示では、これらができるだけわかりやすく伝えることとしております。

また、担当職員在籍時は希望により、展示説明も行うこととしております。是非お越しいただけたらと思います。

文化財保護課からは以上です。

### **教育長 南 順子**

ありがとうございました。

何か、2件報告がございましたけれども、お尋ねになりたいことがありましたらお願ひいたします。

2点目の今美祢市歴史民俗資料館特別展の開催についてでございますが、これは実は生涯学習フェスタを兼ねて、その日から行われていたのですけども、私も行ってみましたが、ちょうど、高橋特別専門員さんがいらしてくださいって、本当に課長からお話がありましたように、パネルも大変わかりやすく展示してあって、丁寧に説明をしていただきました。

その時はなるほど、なるほどと、納得しました。

本当にこれは、国際的価値がさすがやっぱり素晴らしいというところを実感できましたので、期間が来月の21日までということなので、是非また足を運んでいただけたらというふうに思います。

よろしゅうございますでしょうか。次、世界ジオパーク推進課、お願ひいたします。

神田課長

### **世界ジオパーク推進課長 神田 高宏**

世界ジオパーク推進課からは、ジオフェス2025についてご報告させていただきます。

11月16日の日曜日に、カルスター及び周辺でジオフェス2025秋祭りを開催いたしました。

当日は好天にも恵まれ、多くの人でにぎわいました。

市内企業で働くベトナム人技能実習生による、ベトナムの踊りの披露や北河内神楽舞保存会による神楽舞披露、カルスト草炎太鼓による太鼓演奏など、秋吉台の草もみじ、秋の青い空を背景にとてもすばらしい舞台披露となりました。

体験プログラムも盛況で子供から大人まで楽しまれていきました。

パートナー事業者の飲食販売も好調だったと思います。

ジオフェスは事務局、ジオガイドが一緒に考え企画しています。

今後もジオガイドさんたちとアイデアを出し合い、よりよいフェスにしていきたいと考えております。

ジオパーク推進課からは以上です。

### **教育長 南 順子**

ありがとうございました。

大変ご心配でした。

本当に天候にも恵まれ、楽しいジオフェスが開催されたのではないかと思います。

谷岡委員さんもご心配でございました、ブースを受け持っていただきましてありがとうございます。

何か全般を通してでも結構でございます。教育委員の皆様方からのご提案とかご意見がありましたら、お願ひできたらと思います。

松本委員お願ひします

### **委員 松本 孝志**

はい、すみません。1つ教えてください。

先ほどの駅伝競走大会で、中学生が大変少ないっていうのがあったじゃないですか。

今は部活動が地域移行になっていたので、どこどこの中学校が出ると言った場合は、これ学校なのですか。それともその地域移行の部活動が主体なのですかね。

そのあたりでなかなか、出場が難しくなっているのですかね。

その辺の状況ちょっと教えていただけだと。

### **教育長 南 順子**

はい、千々松課長お願ひいたします。

### **生涯学習スポーツ推進課長 千々松 雅幸**

ちょっとお聞きしているのは、学校行事ではもはやないっていうふうな学校側の認識ではありますて、そうなると引率する先生も、なかなか管理職じゃないと難しいであるとか、その駅伝も駅伝部ってあるのですかね。あるところもあるかもしれませんし、臨時部でもあるかもしれませんし、それを募集されるにあたっても強制ではなくて、やりたいっていう人がいて、成り立つというようなところがあって、なかなか学校として、昔のようにはやりにくいっていうふうには聞いております。

合同で、例えばもう、伊佐中とか厚保中とか、単独ではやはりなかなか難しい。生徒数の関係もありますて、合同での参加でもっていうところもお話をし

ているのですけれども。

やはりやっぱりそこの調整であるとかが難しいっていうところで、今後この辺りのあり方も考えていかないといけないっていう認識は強く持っておりま

す。

### **教育長 南 順子**

他にございましたら、お願ひいたします。

井上委員どうぞ。

### **委員 井上 敏雄**

先日ですね、美東地域の警察で、交通事故もそうですけども安心安全に関する会議があったのですよ。

その時に上がった話の1つに、最近熊が多いのですよね。

熊を何とかしろっていうのを警察に言っている人が多くて、ただ警察は、熊が出た後の対策とは、動きがあるのですけど、その時に上がったのが、やっぱり子供がやっぱり危険じゃないですか。

バスを使って通学している子も多くなったのですけど、やっぱり熊に出会ったらどうするのかとか、熊に合わないようにするにはどうしたらいいのかとかいうのを、学校から子供に、いわゆる市教委がどういうふうに学校側へ、伝えているのですかって話が出たのですよ。それで1度その辺を聞いておきたいなと思っています。

多分、熊に会ったら逃げたらダメとかいろいろあるじゃないですか。そのあたりを子供たちに、そういう指導する機会があるのかとかですね。

### **教育長 南 順子**

それは大事なことなので、学教の方では、今ばっちり指導しております。

### **学校教育課長 中島 幹晃**

ありがとうございます。

文科省の方からですね。もう全国的に通知が来て、資料等も来て送付もしておりますが、美祢市においてはですね、山間地域も多く含んでいるということで、それより前に、具体的にまずは熊を知るっていうところで、何時ぐらいの時間体に出やすいとか、何月から何月冬眠前の何月から何月に重点的に出てくるとかですね、そういうところも、ちゃんと事実を知って恐れるというか、対策を打つっていうような、そういうことの、もし出会ってしまったときにはどうするっていうところちゃんと資料をつけてですね、学校の方に送っています。教育総務課の方が、熊鈴の調査もしてくれていて、必要なものはすべて貸し出しを学校にしていますので、そのような対策もしておるところです。

### **委員 井上 敏雄**

「くまっぷ」というのがあるじゃないですか、クマが出た情報が地図に落ちているもので、美祢市を見るとどこでも出ているのですね。

いたるところでどこでも出るので、是非子供たちにはそういう危険がないようにしていただきたい。

### **教育長 南 順子**

ありがとうございました。

命に関わることですので、ここは十分対策等、今、市教委からは学校にそういうふうないろんな情報提供していますが、大事なのはその学校の中でいかに子供たちにわかりやすく本当に伝えているかということなので、またこの辺りよく確認をしながら、子供たちが自分の命を、本当これは難しいのですけど守れる、例えば本当に熊に出会ったときに、とにかく動脈を隠してっていうことで、なかなか難しい。とっさの場合は刺激を与えないとか、大声を出さないとか、とにかく熊を刺激しないようにそおっとその場を離れられたらいいのですけども、本当にこれは難しいことです。

特に12月の12日から19日の間、熊が冬眠に入るという時期があるそうです。それまでにまた多分熊の活動がえさを食べようということで活発になり、かなり見かけられるのじやないかと思うので、自分の身を守るためにことについてはしっかり学校の方とも共有したいと思います。

いろいろありがとうございました。

## **7 教育委員からの提案及び意見**

### **教育長 南 順子**

他に何か委員の皆様方からご提案とかご意見お気づきを是非お願いできたらと思います。

よろしゅうございますでしょうか。

それでは、大変貴重なご意見をいろいろありがとうございます。

事務局の方に返したいと思います。

## **8 次回の教育委員会会議の開催予定**

### **事務局長 千々松 雅幸**

それでは12月の定例会議についてであります。

12月の教育委員会会議は12月23日火曜日13時30分から、この301会議室で行いたいと思いますが、皆さんよろしいでしょうか。

<全員了承>

**閉会**

**事務局長 千々松 雅幸**

以後の予定については記載のとおりであります。

それでは以上をもちまして11月の定例教育委員会会議を終わりたいというふうに思います。

大変お疲れでございました。

**(午後2時55分終了)**

令和 年 月 日

教育長

委 員

委 員

会議録作成